

J R 只見線を活用した観光施策

会津大学短期大学部 産業情報学科 木谷ゼミナール

参加自治体：柳津町 地域振興課 観光商工係
三島町 地域政策課
金山町 商工観光課 商工観光係

福島県会津地方振興局 令和 5 年度会津 DX 日新館事業

2024 年 3 月

目次

1	研究の目的と進め方	3
2	観光客の実態調査	4
2.1	調査の概要	4
2.2	調査結果	5
2.2.1	回答者の属性	5
2.2.2	旅の満足度	6
2.2.3	自由記述の主な内容	6
2.2.4	その他：インタビューを通じての気づき	7
3	商工業者向け実態調査	8
3.1	調査の概要	8
3.2	調査結果	8
4	現地視察	9
5	観光施策の検討と提案	10
5.1	SWOT 分析による地域の強みと弱みの把握	10
5.2	観光施策の検討	12
5.3	観光施策の提案	13
6	今後の展望	15
7	おわりに	15
付録 1	観光客向けアンケートの質問票	16
付録 2	商工業者向けアンケートの質問票	18

1 研究の目的と進め方

2022年10月1日にJR只見線は全線の運転を再開した。只見線とその沿線地域は景観の美しさなどが評価され、高い人気を誇る。こうした地域の貴重な資源であるJR只見線を、観光を通じて地域経済の発展につなげることが、沿線自治体の維持・発展、ひいてはJR只見線そのものの維持にとって不可欠である。沿線自治体の多くは他の地方自治体と同様に、人口減少や少子高齢化に直面している。その中で、JR只見線の全線再開はこの地域にとって他地域と差別化し得る大きな機会である。

地域活性化に向けて有効な観光施策を検討するためには、現状の課題や地域の強みを知る必要がある。そのために、本研究では以下の二つの調査を行った。

①観光客向けの実態調査

観光客の実態や只見線沿線の何に満足や不満を感じているのかを明らかにすることは、今後の観光施策を検討する上で欠かせない。しかし、当地を訪問した観光客の体系的な実態調査は、これまでのところ行われていない。観光客への調査によって、観光におけるこの地の強みや課題を明らかにすることが、本研究の第一歩である。

②商工業者の実態調査

只見線を地域活性化につなげるためには、観光客だけではなく、地域の産業を担う事業者の方々の実態を知ることが必要である。地域でサービスや製品を提供する事業者の方々が、只見線全線再開によってどのような影響を受けたのか、今後どのような展望を持っているのかを明らかにすることは、観光施策を考える上で重要な要素である。

以上の調査に加え、ゼミでは実際に当地の観光資源を訪れ、その魅力や課題について議論した。二つの調査と自分たちの視察を踏まえて、当地域の強みや弱みをSWOT分析によって整理し、観光施策を検討する。

2 観光客の実態調査

2.1 調査の概要

この地域を訪れる観光客の実態や何に満足や不満を感じているのかを明らかにするために、柳津町、三島町、金山町への観光客に対するアンケート調査を実施した。この調査は、日本人の観光者を対象に、以下の場所および日程で実施した。

調査では、下の写真のように看板を持った学生が観光客に声をかけ、質問票の事項を尋ねた。付録1が、調査の質問票である。3日間で合計400人から回答を得た¹。

- 調査地点
JRの駅→ 会津柳津駅、会津宮下駅、会津川口駅
道の駅→ 会津柳津、尾瀬街道みしま宿、奥会津かねやま
- 調査期間
10月22日(日)、10月28日(土)、11月3日(金・祝日)
- 調査項目
個人属性、来訪地・来訪目的、情報収集の手段、消費額、観光の満足度、只見線の乗車経験、改善すべき点、など
- 回答数：400件（有効回答数：390件）



(会津宮下駅前撮影)

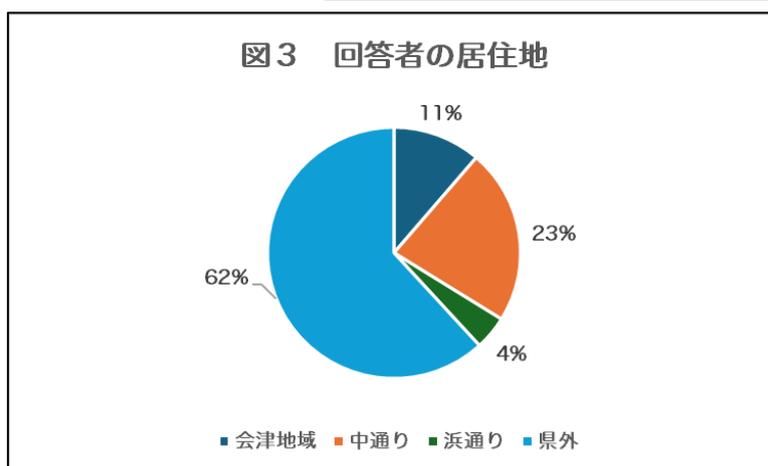
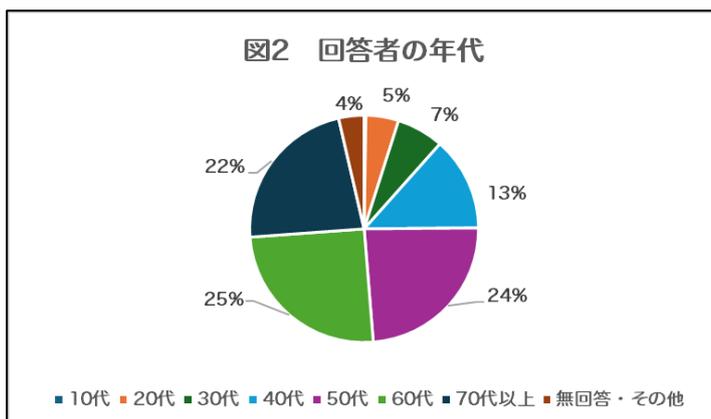
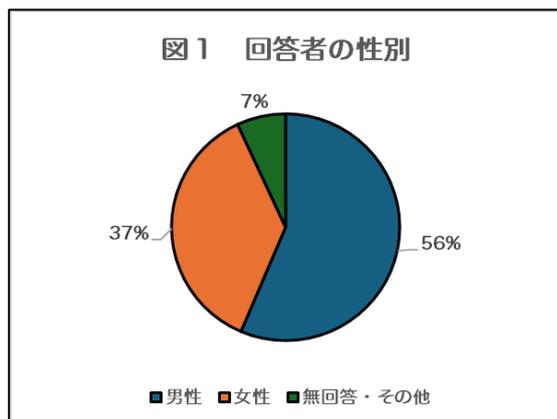
¹ 400件の中には外国人旅行者による回答や来訪目的が仕事といった回答が10件あった。それらは分析から除いている。

2.2 調査結果

調査結果のうち、ここでは回答者の属性と旅の満足度、自由記述の内容について紹介する。なお、調査項目は多岐にわたっており、すべての分析はまだ終了していない。今後も分析を継続する予定である²。

2.2.1 回答者の属性

回答者の性別、年齢、居住地は以下の通りである。性別では男性が多いが、これは夫婦など男女ペアの場合、男性が回答することが多かったためと考えられる(図1)。年齢は50代以上が大部分を占める(図2)。中高年層の方がインタビューにより多く協力してくれたということも考えられるが、調査者の実感でもこの年齢層の観光客が多く、若年層の観光客は少ない印象であった。居住地では、紅葉シーズンということもあり、県外が多数を占めた(図3)。なお、県外の内訳では新潟県が最も多く、千葉県、栃木県、宮城県がそれに続く。県外観光客のほとんどが東日本からであり、西日本からの観光客はごくわずかであった。



² 調査結果のうち情報収集手段や消費額については、ゼミ2年生の大竹真菜さんが卒業研究で分析した。分析結果については、卒業研究要旨を参照されたい (<https://www.jc.u-aizu.ac.jp/news/2024/02/2023-27.html> に掲載)。

2.2.2 旅の満足度

表1は、沿線地域全体および旅に関する項目の満足度である。「沿線地域全体の旅の満足度」の平均は4.34、「自然・景色」は4.7と非常に高い。一方で、「買い物」「飲食」「宿泊施設」「交通」の満足度はやや低い結果となっている。

表1 観光客の満足度

変数名	回答数	平均	標準偏差	最小値	最大値
1 沿線地域全体の旅の満足度	365	4.34	0.72	1	5
2 自然・風景	378	4.70	0.57	1	5
3 買い物	354	3.45	0.82	1	5
4 飲食	352	3.67	0.88	1	5
5 宿泊施設	188	3.46	0.78	1	5
6 交通	348	3.51	0.97	1	5

注) 5とてもよい、4よい、3普通、2あまりよくない、1よくない

2.2.3 自由記述の主な内容

調査では、只見線沿線地域や只見線について残念に思ったことや改善すべき点があれば、自由に回答を求めた。以下のような回答があった。

- ・ PRの不足
- ・ 飲食店・買い物の場所が少ない（土産物、コンビニ、ガソリンスタンドなど）
- ・ 只見線の本数が少ない
- ・ 道路が狭い
- ・ 観光の施設・設備（案内板、階段の手すりなど）
- ・ 名物がわかりにくい

買い物や飲食、交通に対する意見が多く見られた。こうした結果は、前述の満足度の結果と一致する。観光の施設・設備に関しては、回答者の多くが中高年層であったことから、案内板の見やすさや階段の上りやすさに関する意見が挙げられたと考えられる。上記の他、改善点ではないが、「このままで良い」という意見も複数件見られた。

2.2.4 その他：インタビューを通じての気づき

調査を通じ、観光客の多くは、奥会津の只見線沿線地域と会津若松市、喜多方市、下郷町、昭和村などの他地域を明確には区別しておらず、ひとつの地域として見ていると感じた（例えば、奥会津の只見線沿線地域の訪問地の質問に対して、会津若松市内などの地名の回答が複数見られた）。

また、多くの外国人観光客（台湾をはじめとする東アジアの旅行者が多いと思われる）が来訪していた。今回は日本人観光客が調査対象であったが、コロナ後のこの地の観光を牽引する力として、外国人観光客の可能性を強く感じた。

3 商工業者向け実態調査

3.1 調査の概要

地域の商工業者は只見線全線再開によりどのような影響を受け、今後どのような展望を持っているのかを明らかにするため、商工業者への調査を行った。調査は金山町の商工業者を対象に郵送で実施した。日程、調査項目等は以下の通りである。質問票は付録2に掲載している。

- 調査対象
金山町の商工業者61件（自動車整備、農業等は除く）
回答数：28件（回答率45.9%）
- 調査期間
2024年1月～2月（郵送）
- 調査項目
業種、只見線再開による売上や雇用への影響・客層の変化、
今後の事業展開、など

郵送による調査であること、また、売上等、経営状況に関する質問を含んでいることから、回答率が低くなることが懸念されたが、45.9%と想定を上回る回答が得られた。

3.2 調査結果

只見線全線再開による売上への影響について、売上が増加したとの回答が9件あった。また、全線再開後に従業員を増やしたとの回答は4件であった。これらの回答は、小売・サービスなど、観光客の増加によって直接的な影響を受けるとされる業種でみられた。それ以外の業種では、「影響なし」との回答が多くを占めた。

また、今後の事業展開については、「事業を拡大したい」という回答は非常に少なく、多くは「現状維持」または「縮小したい」であった。「その他」の欄では、現状維持や縮小の理由として、人手不足、高齢であるといった記述が見られた。

以上のように、①只見線全線再開は地域経済に良好な影響をもたらしているものの、それはまだ地域全体に波及するものではないこと、②多くの地方と同じく高齢化や人手不足という問題が事業継続・拡大の阻害要因になること、が明らかとなった。

4 現地視察

2024年2月26日（月）に柳津町、三島町、金山町の観光地を訪問した。主な訪問地は以下の通り。

- ・ 柳津町：道の駅、福満虚空藏菩薩圓藏寺、柳津西山地熱発電所、粟まんじゅう販売店
- ・ 三島町：道の駅、第一只見川橋梁ビューポイント、宮下アーチ3兄（橋）弟、会津宮下駅周辺
- ・ 金山町：道の駅、会津川口駅周辺、炭酸泉、沼沢湖
（月曜日だったため、美術館等の施設は訪問していない）



（三島町第一只見川橋梁ビューポイントにて撮影）



（金山町大塩天然炭酸場にて撮影）

視察を通じ、学生たちからは様々な意見・感想が挙げられた。主な意見・感想を以下に紹介する。

- ・ 自然の景色や街の景観など、ここにしかないものがある。
- ・ ネットに店舗の営業情報などが出ているが、更新されていない様子（定休日ではないが休んでいる店が多かった。営業していると思って店を訪れたと見られる観光客がいた）。
- ・ 高齢者には、細い山道の運転や徒歩は厳しいかもしれない。車による移動では、車酔いするかもしれない。
- ・ 冬場や雨のときに楽しめるものがあると良い。また、月曜日は美術館等が一斉に休んでおり、そのときに観光客が楽しめる工夫が必要。

5 観光施策の検討と提案

5.1 SWOT 分析による地域の強みと弱みの把握

二つの調査で明らかになった点と現地視察で得た自分たちの感想・意見を SWOT 分析によって整理した。SWOT 分析は、元々は企業の経営戦略を立案するために考案された。企業以外にも用いることができ、欧米では地域発展戦略の立案にも活用されている³。

SWOT 分析では、地域の様々な特徴や要素を自らの力でコントロールできる内的な要因とコントロールが難しい外的な要因に分類する。内的要因は、地域の持つ強さ（Strengths）と弱さ（Weaknesses）に分類できる。また、外的要因は地域にとって好ましい機会（Opportunities）と好ましくない脅威（Threats）に分けられる（下図）。

図4 SWOT 分析のイメージ



地域の特徴を4つの要因に分類することで、とるべき施策を効率的に検討することができる。具体的には、地域の強み・弱み・機会・脅威を把握した上で、4つの領域で施策を検討する。強みと機会を組み合わせることで、積極的に取り組むべき施策（積極戦略）を考える。同様に、強みと脅威（差別化戦略）、弱みと機会（改善戦略）、弱みと脅威（致命傷回避戦略）を組み合わせることで、施策を検討する。

³林宣嗣・山鹿久木・林亮輔・林勇貴、「地域政策の経済学」、日本評論社（2018年）を参照。

調査と現地視察を踏まえて、地域の四つの要因を整理したものが表2、3である。なお、分類においては各事項の根拠を示すよう心がけた。各文の最後にあるカッコ内は、根拠を示している（ただし、一般的に知られているものについては記載していない）。

表2 只見線沿線地域の強みと弱み

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> 観光客の満足度は高い、現状を評価する声もある（調査より） 赤べこ、炭酸泉、地熱発電など、ここにしかないものがある（視察より） 直接の目的地ではないが、道中で立ち寄る人が多い（調査より） 自然の美しさや建物・景観など田舎らしさがある（調査・視察より） キャンプ場などそれを感じる施設もある（視察より） 人が優しい（調査より） 星空がきれい（報道より） 	<ul style="list-style-type: none"> 道路の狭さ（調査・視察より） 飲食店・宿泊施設の少なさ（調査・視察より） 観光地間の移動距離が長い（視察より） 地元事業者の高齢化・人手不足（調査より） 観光業に好影響が限られる（調査より） 主たる観光客は中高年層（強みでもある）、若者が少ない（調査より） 高齢者をターゲットとするなら、緩やかな階段や案内板など高齢者向けの対応が必要（調査・視察より） 店の営業時間などの情報がネットに少ない。多言語化が必要 決済手段が限定的。不便を感じる（視察より） 1回見れば十分との意見（調査より） 外国人（台湾の人たち）の口コミが少ない（ネット検索より）

表3 只見線沿線地域の機会と脅威

機会	脅威
<ul style="list-style-type: none"> 会津若松、喜多方、尾瀬など、周辺観光地と近い。観光客はひとつの地域として捉えている（調査より） 只見線の全線再開。多くの報道 コロナ禍の収束 外国人観光客（特に台湾）の増加（調査・視察より） ➢ 台北と福島県の観光協力関係。直行便の運航。ウルトラマンや抹茶が人気（報道より） 外国人にとって観光地としての東北の人気（報道より） 会津コインの普及 ChatGPTなど安価で使いやすいAIの登場 	<ul style="list-style-type: none"> 冬の雪、険しい地形（調査より） ➢ 機会でもある JRの本数の少なさ。待ち時間が長い 他の有名観光地との競合 ➢ 他の観光地の魅力が大きい（特に若者にとって） 会津若松の知名度。若松で観光が完結する ➢ 赤べこやあわまんじゅうも買える。奥会津に行かなくても良い 会津若松市民も奥会津のことを詳しく知らない ネットワーク環境が良くない（視察より）

5.2 観光施策の検討

表2、3の要因を組合せ、ゼミで施策を検討した。施策の検討では、この地域の観光を改善するために、幅広く、様々な側面から議論した。表4は、ゼミでの議論を通じて考えた施策案である。

表4 施策の検討

積極戦略 (機会+強み)	改善戦略 (機会+弱み)
<ul style="list-style-type: none"> • 外国人や中高年の観光客に、会津若松と違う奥会津の良さ（田舎らしさや自然の美しさ）を感じてもらう仕組み作る <ul style="list-style-type: none"> ➢ 街歩き仕組み（スタンプラリーなど） • 体験型観光の整備 • 古民家の利用⇒金山で実施（報道より） <ul style="list-style-type: none"> ➢ 岡山・矢掛町「町ごとホテル」が参考になる • 星空観察イベントの実施 	<ul style="list-style-type: none"> • 冬に外国の人が来ても、買うものがない。冬に適したもの（温かい抹茶など）を売る • 会津コインをプリペイド式にして、外国人や観光客に利用してもらう • AIを活用した多言語化と情報提供 • 短時間のバスツアー（半日程度） • 鉄道以外を対象にしたフォトコンテスト • 多様な年齢層へのアピール：ツーリング・自転車をアピールした情報発信・環境整備 • 店の案内図や割引券を駅に設置する （右図はイメージ） <div data-bbox="1157 1030 1356 1288" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> </div>
差別化戦略 (脅威+強み)	致命傷回避・撤退縮小戦略 (脅威+弱み)
<ul style="list-style-type: none"> • 会津若松から観光客を誘導する <ul style="list-style-type: none"> ➢ キャンプなど都市とは異なる魅力の訴求（温泉巡り？ソースカツ丼？） ➢ 鶴ヶ城からの誘客。円蔵寺などおすすめスポットを伝える ➢ 若松市民向けのツアー • 赤べこをもっとPRする。赤べこの門を立てるなど、境界を明確にする 	<ul style="list-style-type: none"> • 中高齢者に優しい工夫 <ul style="list-style-type: none"> ➢ ビュースポットでは頂上までの段数を示す ➢ 手すりや階段の整備 • 時間を持て余す観光客向けの飲食店など <ul style="list-style-type: none"> ➢ 物産展のような、一か所でお会津のものが集まる仕組み • 駅にパズルや本を置くなど、待ち時間をつぶせる工夫

5.3 観光施策の提案

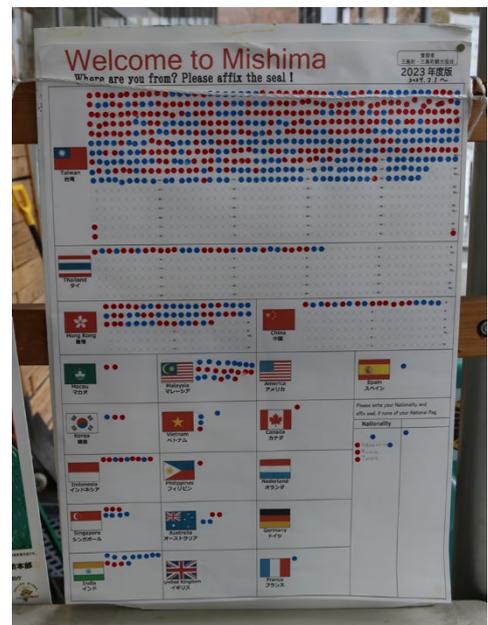
様々な施策を検討する中で特に注目したのは、この地域の強みである只見線を含む美しい風景や自然、街並みをより活かすためにはどうすれば良いのかという点と、只見線の本数の少なさなど地域の弱み・脅威をどう改善するかという点であった。それを踏まえ、今年度は以下の二つの施策を提案する。

提案① 外国人観光客向けの情報発信と会津若松からの誘客

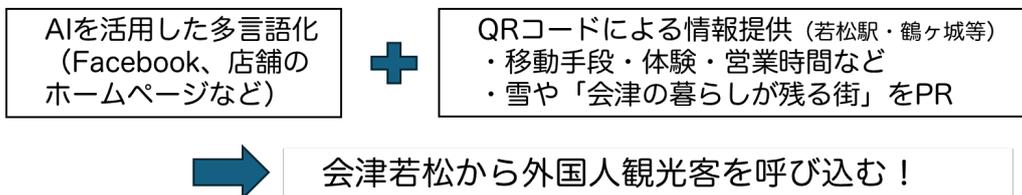
ネット上の外国語の口コミを見ても、会津若松市の外国人観光客の人気・知名度は高いと考えられる。現状でも只見線や沿線地域には多くの外国人観光客が訪れているが（右の写真を参照）、高い知名度を誇る会津若松から外国人観光客を誘客できれば、さらに観光客を増やすことができる。

外国人観光客を呼び込むためには、多言語による情報発信が欠かせない。最近は安価にAIが利用できることから、AIを活用した情報発信の多言語化を提案する。

また、只見線沿線地域に関する多言語化した情報を伝えるためには、鶴ヶ城や会津若松駅など、会津若松市内の観光地にQRコードを貼付したポスター、チラシなどを設置することが考えられる。QRコードからネットに誘導することで、移動手段や体験、店舗の情報だけでなく、雪や美しい景観など街の魅力をさらにPRできる。



道の駅・尾瀬街道みしま宿にて2024年2月26日に撮影



提案② 待ち時間を利用した手作り体験機会の提供

観光客への調査では、只見線に乗りたいが本数が少なく、利便性が悪いとの声があった。只見線に乗りたくても、利便性の観点から乗ることができない観光客が潜在的に多くいると考えられる。また、駅周辺で時間をつぶすための場所が少ないとの意見も見られた。

駅やその周辺で観光客が楽しく過ごすことができれば、只見線の乗客数増だけでなく、滞在時間が延びて消費が増加し地域の事業者にも好影響があると考えられる。そのために、地元の素材を活かしたアクセサリーやストラップを手作りできるようなブースを駅やその近くに設けることを提案したい（例えば、三島町の生活工芸館ではアクセサリー等の制作体験ができるが、それをより簡潔に手軽にしたもの）。

移動に伴う待ち時間を楽しく過ごすことができるだけでなく、奥会津の工芸をPRする機会にもなると考えられる。また、現在の主たる観光客である中高年層だけではなく、若者や外国人、子供連れの家族にもアピールすることができる。

なお、上記二つの施策に限らず、表4で提示したそれぞれの施策は、実現可能性や費用対効果の面で、今後、さらなる検討が必要である。

6 今後の展望

今後は、観光客データのより詳細な分析を進める。また、今回 SWOT 分析で挙げた施策についてその前提や実現可能性・有効性について、さらに検討する必要がある。そのために、特に以下の取組を進める必要がある。

① 外国人観光客の動向の把握

今回の観光客の実態調査では外国人は調査していない。今後の観光を牽引する存在として外国人、特に台湾からの観光客にかかる期待は大きい。外国人観光客の現状や課題、嗜好を確認することで、より効果的な施策が検討できる。外国人観光客自身に対する調査に加え、旅行に係わる事業者や団体等へのヒアリングによって、有効な情報が得られると思われる。

② 効果的な情報発信方法の分析

アクセス解析などにより、情報が適切に届いているのかを分析する必要がある。現在、それぞれの町は観光客向けの情報を Facebook 等で発信しているが、SNS などの情報発信手段は多岐にわたり、そのすべてを頻繁に更新することは難しい。中高齢層や外国人など、奥会津を訪れる人たちにどのような手段でどのような情報を伝えるべきなのかを明らかにできれば、只見線や各自治体の魅力をより効率的・効果的に発信できる。

7 おわりに

只見線を活用した観光施策というテーマは広範で、施策の検討ではどのような側面から取り組むべきなのか、どこに焦点を置くべきなのかを悩みながら議論した。大きなテーマであるがゆえに、施策のアイデアは小さなものから大きなものまで、幅広いものとなった。実現可能性を含めまだまだ検討が必要であるが、学生たちならでの提案として、今後の施策の一助になれば幸いである。

最後に、本研究を推進する上でご協力いただいた柳津町、三島町、金山町のご担当者の皆様、アンケート調査にご協力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

また、観光客の向けの調査実施時には、地域の皆様から温かい声をかけていただいたり、差し入れをいただいたりしました。皆様のお心遣いは、調査の大きなモチベーションとなりました。ありがとうございました。

付録1 観光客向けアンケートの質問票

インタビュー開始前または開始時に記入してください。

場所 _____ インタビュー実施者名 _____

インタビュー開始時刻: _____ 時 _____ 分 _____ 秒

・ 会津短大と地元自治体の関係であることを伝え、「観光でお越しですか?」と聞いてください。
 ・ アンケートには10分程度かかると伝えてください。
 ・ 観光客でアンケート協力への承諾が得られたら、質問を始めてください。

<質問はここからです>

① お住いの場所はどこですか? 【1つを選択】
 1. 会津地域 2. 中通り 3. 浜通り 4. 他県 () 5. その他 ()

② どなたと旅行をされていますか? 【該当するものすべてを選択】
 1. 個人
 2. 家族・親戚 3. 仕事仲間・同僚 4. 友人・その他 → グループは何人ですか? (男性: _____ 女性: _____)

③ 今回は、ツアーなどに参加していますか?
 参加している・いない

以下では、**新津町**、**三島町**、**釜山町**、**只見町の只見線沿線地域**についてお聞きします。

④ 今回の只見線沿線地域への旅行は日帰りですか、宿泊ですか? 【1つを選択】
 a. 日帰り b. 宿泊する
 → 何泊しますか? (泊) _____
 → どの町に泊りますか? () _____

⑤ これまでに只見線沿線地域を訪れたことはありますか? 【1つを選択】
 a. 初めて b.1回 c.2~4回 d.5~9回 e.10回以上

⑥ この地域への今回の来訪の目的を教えてください。【複数回答可】
 1. 紅葉や景観を見るため 2. 只見線の乗車 3. 只見線の撮影 4. 温泉 5. 宿泊 6. 買物 7. 食事
 8. キャンプ・釜山等のアクティビティ 9. 地域イベントへの参加
 10. その他 () _____

⑦ この地域での移動にどの交通機関を利用していますか? 【複数回答可】
 1. 自家用車 2. レンタカー
 3. 只見線 (※只見線利用の場合、どちらの方面から乗車したか開き○を付けてください)
 → 会津若松方面で乗車・小浜町方面で乗車 → 奥会津で下車した駅は、() 駅
 4. 公共バス 5. 観光バスツアー 6. タクシー 7. レンタサイクル 8. 徒歩 9. その他 () _____

⑧ 初めてこの地域を知りきっかけになったものはなんですか? 【複数回答可】
 1. テレビ・ラジオ 2. 観光情報誌 3. 新聞 4. ウェブサイト・ブログ 5. Facebook 6. X (旧 Twitter)
 7. Instagram 8. 知人 9. その他 SNS
 具体的にどのようなものか? → 例: 旅番組で紹介されていた、インスタに映えスポットとして載っていた () _____

⑨ 今回の地域を訪れようと思ったから、どのように情報収集をしましたか? 【複数回答可】
 1. テレビ・ラジオ 2. 観光情報誌 3. 新聞 4. ウェブサイト・ブログ 5. Facebook 6. X (旧 Twitter)
 7. Instagram 8. 知人 9. その他 SNS 10. 特になし

⑩ 今回の地域で訪れた、または訪れる予定のスポットを教えてください。【該当するものすべて】
【釜山町】
 1. ビュースポット (かねやまふれあい広場) 2. 東北電力奥会津水力発電所
 3. 沼沢湖 (湖畔・キャンプ場など) 4. 藤田城 (むげんきょう) 5. 炭酸泉 6. 只見線(会津川口駅)
 7. 道の駅 8. 秋葉美術館 9. せせらぎ荘 10. 山入 藤原仏 (まがいぶつ) 11. おう穴群 (おうけつぐん)
【三島町】
 1. 奥沢高原 2. 只見川橋梁ビューポイント(第1,第2,第3) 3. 三島町生活工場 4. 早戸温泉つるの湯
 5. 道の駅 (尾瀬街道みしま宿) 6. 三島町交流センター山びこ 7. 志津青山
 8. からんころん (レンタサイクル含む) 9. 森の牧舎カクタリ
【新津町】
 1. 虚空蔵尊円蔵寺 2. 赤べこのキブツ 3. 観光物産館「清柳苑」・道の駅 4. 新津観光船
 5. あまみじゅう屋 6. 夏草津美術館 (夏草津アトリエ) 7. ラッキー公園 in やないづまち 8. 新津温泉
 9. 新津町森林公園 10. 瑞光寺公園 11. 会津新津駅
【その他】 (只見町など、他の町のスポットを含む) _____

⑪ 今回の旅行での只見線沿線地域での消費金額を教えてください。予定額も含めてお答えください。
 1. 宿泊費 _____ 円
 2. 土産費 _____ 円
 3. 飲食費 _____ 円
 4. 町内交通費 _____ 円
 5. その他 _____ 円

⑫ お土産はどこで購入しましたか? 【複数回答可】
 1. JR 駅 2. 道の駅 3. 観光エリアの土産店
 4. その他 () _____
土産費がゼロの場合、記入不要

⑬ グループの場合のみ
 上の1~5の金額は、グループ全体の金額ですが、回答者個人の金額ですか?
 1. グループ全体 2. 個人

⑭ 只見線沿線地域の印象についてお聞きします。5段階で最も当てはまる評価を教えてください。
 a. 沿線地域全体の景観の満足度 1. とてもよい 2. よい 3. 普通 4. あまりよくない 5. よくない
 b. 自然・風景 1. とてもよい 2. よい 3. 普通 4. あまりよくない 5. よくない
 c. 買い物 1. とてもよい 2. よい 3. 普通 4. あまりよくない 5. よくない
 d. 飲食 1. とてもよい 2. よい 3. 普通 4. あまりよくない 5. よくない
 e. 宿泊施設 1. とてもよい 2. よい 3. 普通 4. あまりよくない 5. よくない
 f. 交通 1. とてもよい 2. よい 3. 普通 4. あまりよくない 5. よくない

⑮ もう一度只見線沿線地域を訪れたいですか?
 1. はい
 2. いいえ → 理由を教えてください () _____

⑯ 只見線に乗ったことはありますか?
 1. はい → 何回乗ったことがありますか?
 a. 1回 b. 2~4回 c. 5~9回 d. 10回以上
 只見線の魅力は何ですか? 【複数回答可】
 1. 車窓から見える景色 2. 只見線と自然が織りなす風景
 3. 沿線地域の食や温泉 4. 只見線車両外観 5. 只見線の撮影
 6. その他 () _____
 2. いいえ → 只見線に乗りたいと思いませんか?
 1. 思う 2. 思わない → 理由を教えてください () _____

⑰ 只見線沿線地域・只見線に感懐したことや「ここを改善すればもっと良いのに」と感じたことがあれば教えてください。

⑱ 最後にご自身のことについてうかがいます。
 <回答者ご自身について> *グループの場合、回答してくれた方について記入してください
 性別: 1. 男性 2. 女性 3. 無回答
 年代: a. 10歳未満 b. 10代 c. 20代 d. 30代 e. 40代 f. 50代 g. 60代 h. 70代以上 i. 無回答
 年代については、口の部分を回答者に見せて、指差しなどで答えてもらってください。
 回答者への質問は以上です。
***グループの場合、他のメンバーの方に以下の点を聞いてください。**
グループメンバー① 性別 () ・年代 ()
 ① 只見線沿線地域の印象についてお聞きします。5段階で最も当てはまる評価を教えてください
 沿線地域全体の景観の満足度 1. とてもよい 2. よい 3. 普通 4. あまりよくない 5. よくない
 ② もう一度只見線沿線地域を訪れたいですか
 1. はい
 2. いいえ → 理由があれば教えてください () _____

グループメンバー② 性別 ()・年代 ()

①只見線沿線地域の印象についてお聞きします。5段階で最も当てはまる評価を教えてください
沿線地域全体の満足度 1.とてもよい 2.よい 3.普通 4.あまりよくない 5.よくない

②もう一度只見線沿線地域を訪れたいですか

1.はい

2.いいえ⇒理由があれば教えてください ()

グループメンバー③ 性別 ()・年代 ()

①只見線沿線地域の印象についてお聞きします。5段階で最も当てはまる評価を教えてください
沿線地域全体の満足度 1.とてもよい 2.よい 3.普通 4.あまりよくない 5.よくない

②もう一度只見線沿線地域を訪れたいですか

1.はい

2.いいえ⇒理由があれば教えてください ()

グループメンバー④ 性別 ()・年代 ()

①只見線沿線地域の印象についてお聞きします。5段階で最も当てはまる評価を教えてください
沿線地域全体の満足度 1.とてもよい 2.よい 3.普通 4.あまりよくない 5.よくない

②もう一度只見線沿線地域を訪れたいですか

1.はい

2.いいえ⇒理由があれば教えてください ()

(グループメンバーが5人以上の場合、裏に記入してください)

最後に、インタビュー実施者へのお礼

<インタビューで気になったコメントや発言があれば記入してください。回答者以外のメンバーのコメント・発言でも構いません>

付録2 商工業者向けアンケートの質問票

<p style="text-align: center;">只見線全線再開の経営環境への影響に関する実態調査</p> <p style="text-align: center;">調査ご協力をお願い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>本研究は、2022年10月の只見線全線再開によって、金山町の事業者の皆様が経営環境にどのような影響があったのかを明らかにするため、金山町役場と会津大学短期大学部の木谷ゼミナールが共同で実施するものです。なお、この調査は、会津地方振興局の事業「会津 DX 日新館」の調査研究プロジェクトの一環として実施いたします。</p><p>お忙しいところ誠に恐縮でございますが、以上の趣旨をご理解の上、調査にご協力をいただきますようお願い申し上げます。</p><p style="text-align: right;">2024年1月</p></div> <ul style="list-style-type: none">● 経営者の方ご自身がご記入ください。● 調査を強制するものではありませんが、可能な限り、ご協力をお願いいたします。● 企業名・事業所名や経営者の方のお名前が外に出ることはありません。● 当てはまる選択肢に○を付けてください。記入欄がある場合には、記入欄に書き込んでください。● 同封の返信用封筒にてご返却ください。● お忙しいところ恐れ入りますが、2024年2月12日(月)までにポストへ投函してくださいませよう、お願い申し上げます。 <p>アンケート内容に関する問い合わせ先</p> <p>会津大学短期大学部 産業情報学科 木谷ゼミナール 電話番号：0242-37-2300（代表）</p> <p style="text-align: center;">質問は、次ページから始まります（4ページまであります）。 1</p>	<p>1. 記入者について</p> <p>(1) 企業名・事業所名をご記入ください。（ _____ ）</p> <p>(2) 回答者のお名前をご記入ください。（ _____ ）</p> <p>2. 事業の概要について</p> <p>(1) 経営者の方の年齢をお答えください。</p> <p>ア. 20歳未満 イ. 20歳～29歳 ウ. 30歳～39歳 エ. 40歳～49歳 オ. 50歳～59歳 カ. 60歳～69歳 キ. 70～79歳 ク. 80歳以上</p> <p>(2) 貴社・貴事業所の主たる事業をひとつお答えください。</p> <p>①小売業 ②飲食業 ③製造業 ④サービス業 ⑤宿泊業 ⑥理美容業 ⑦旅客運送業 ⑧その他</p> <p>(3) 現在の従業員数についてお答えください（経営者の方は除いてお答えください）。</p> <p>・ 正規雇用の従業員数 _____ 人 ・ 非正規雇用（パートやアルバイト）の従業員数 _____ 人</p> <p>(4) 2022年10月の只見線全線再開を受けて、従業員数を増やしたり減らしたりしましたか。</p> <p>・ 正規雇用の従業員 → 増やした（ _____ ）人・変わらない・減らした（ _____ ）人 ・ 非正規雇用の従業員 → 増やした（ _____ ）人・変わらない・減らした（ _____ ）人</p> <p>3. 2022年10月の只見線全線再開の影響について（*貴社・貴事業所についてお答えください）</p> <p>(1) 只見線全線再開の前と後を比べて、客数に変化はありましたか。</p> <p>① 増加した ② 変わらない ③ 減った</p> <p>「①増加した」、または、「③減った」と回答した方にお聞きします。客数の変化はどの程度ですか？</p> <p>① 1割程度 ② 2割程度 ③ 3割程度 ④ 4割以上</p> <p style="text-align: right;">2 <u>次ページへ続きます</u></p>
---	--

<p>(2) 只見線全線再開の前と後を比べて、客一人当たりの消費額に変化はありましたか？</p> <p>① 増加した ② 変わらない ③ 減った</p> <p>「①増加した」、または、「③減った」と回答した方にお聞きします。客一人当たりの消費額の変化はどの程度ですか？</p> <p>① 1割程度 ② 2割程度 ③ 3割程度 ④ 4割以上</p> <p>(3) 只見線全線再開の前と後を比べて、売上高に変化はありましたか？</p> <p>① 増加した ② 変わらない ③ 減った</p> <p>「①増加した」、または、「③減った」と回答した方にお聞きします。売上高の変化はどの程度ですか？</p> <p>① 1割程度 ② 2割程度 ③ 3割程度 ④ 4割以上</p> <p>(4) 只見線全線再開の前と後を比べて、増加した客層や減少した客層はありますか？ (例：外国人旅行者、観光客など)</p> <p>増加した客層 → (_____) 減少した客層 → (_____)</p> <p>(5) 只見線全線再開後の変化に関してお気づきの点がございましたら、自由にご記入ください。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 60px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: center;">3 <u>次ページへ続きます</u></p>	<p>4. 今後の取り組みについて</p> <p>(1) 今後の事業展開についてお答えください。</p> <p>① 事業を拡大したい（一次の質問にお答えください） ② 事業を縮小したい ③ 現状維持 ④ わからない ⑤ その他 → (_____)</p> <p>(2) 上記の質問で、「①事業を拡大したい」を選んだ方のみお答えください。事業の拡大に向けて、今後取り組みたいことはありますか？（複数回答可）</p> <p>①店舗・設備の拡大 ②雇用の拡大 ③新製品・新サービスの拡大 ④既存製品・サービスの高付加価値化 ⑤新しい事業分野への進出 ⑥従業員の技術向上 ⑦その他 (_____)</p> <p>(3) 上記(1)の質問で、「①事業を拡大したい」を選んだ方のみお答えください。事業拡大に取り組み上で想定される課題について、該当するものをお答えください（複数回答可）。</p> <p>①製品・サービスの不足 ②資金の不足 ③人材の不足 ④市場情報の不足 ⑤加齢・ノウハウ・技術の不足 ⑥許認可等に係る規制・制度 ⑦設備の老朽化・不足 ⑧その他 (_____) ⑨特になし</p> <p>質問はここで終了です。ご協力、ありがとうございました。同封の返信用封筒にて、2024年2月12日(月)までにポストへご返函くださいますよう、お願い申し上げます。</p> <p style="text-align: center;">4</p>
--	--